

みんなが望む政治家らしい政治家との狭間で、前編

市議会議員に当選させていただいてから3年目に突入しました。どんな職業でも、仕事が見えてこなれてきて、反面、難しさも感じるこの時期をどう過ごすかが最も大切だと感じています。小学生の頃からゲーム(※ファミリーコンピュータ)が大好きで、ゲームでみんなワイワイ遊んで「凄いな。ゲームって凄いな!ゲームとの出会いに感謝したいな!」という気持ちがありました。そして20代でゲームを作っていく職業に就きました。でも、12年後に友人の死に直面し悩む事になりました。ここまで育てた友人の両親たちはこれからどうなるんだろう?やるせない思いが抑えがたく湧き上がってきました。面白いゲームは作った。新しいエンターテインメントのジャンルも作った。だけど、楽しめない人がいる。だから、悲しいというよりはただただ無力さを痛感しました。そして、自分の「人に楽しんで欲しい」「幸せになって欲しい」という気持ちは政治の世界でも生かせるのではないだろうか、と考えました。30代にして挑む、政治家としての第2の人生。寝る間を惜しんで取り組んできました。自分なりに2年間ひたむきにやってきましたが、政治や行政の限界が見えてきます。職業柄なのか、たくさんの批判とほんのちよっぴりの賞賛を毎日毎日シャワーのように浴びていると、自分の感覚が少しずつおかしくなっているのではないか?という恐怖心に苛まれます。…この切り口で詳細を含めて、お伝えしたい事がありますが、紙面の都合により、次回改めて述べます。今回は皆さんへの提言というより、「vol.1好きです市川」以来の自分の振り返りになってしまいました。今後も「現状の市川市の問題点」「市川市を良くするための政策・施策」「私達にも出来る小さな事」等を提案させていただきます。朝の時間のない中、ご迷惑に感じるかもしれませんが、この活動が市川市をより良くする一歩だと信じています。何卒よろしくお願いします。また、どうかみなさんで「今後も住み続けてみたい市川市」を思い描き、話し合ってください。個々人の思いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ!

平成25年8月29日

増田好秀